空き家とまちのつなぎかた

調布市空き家エリアリノベーション2021-2022

調布市

調布市 空き家 エリアリノベーション事業

「東京都エリアリノベーション推進支援事業」採択事業

CONTENTS ── コンテンツを一部紹介!

■空き家の**活用チャレンジへ!**
みなさんとつくっていきます

■講演＆トークセッション
「まちの魅力を高める**まちづくり活動**」
「**遊び**と**学び**と**まちづくり**」ほか、
レポート

■プロジェクトの**これまで**と**これから**

■**チャンジショップ**は
地域の**交流**と新しい**魅力**を生み出す

2022年6月1日（予定）

富士見町 チャレンジショップ オープン!

一般公募した空き家活用アイデアを実際に行っていただく場です。富士見町1丁目で23年1月までの期間限定オープン。ぜひお立ち寄りください!

（詳細はP.02-03及びP.22に）

調布市空き家エリアリノベーション2021-2022
空き家とまちのつなぎかた
発行：調布市
発行日：2022年3月31日

お問い合わせ：調布市都市整備部住宅課 空き家施策担当
〒182-8511 東京都調布市小島町2丁目35番地1
tel.042-481-7817 メール：akiya@w2.city.chofu.tokyo.jp

編集・制作：小西威史（パカノラ編集処）
デザイン：園 健次郎（サウスベント）

／空き家活用の未来が見えてきます！／

調布市空き家エリアリノベーション事業、2022年・23年は実際のアクションへ！

令和２年（2020年）度にスタートした３か年プロジェクトの本事業も２年目となりました。今年度の上半期は、昨年度に引き続き先進事例のトークイベントを計４回開催しました。ゲスト講師のみなさんが揃って「楽しむ」というキーワードを挙げていたのが印象的でした。こうした先進事例からの学びを活かした地域づくりに向けて、エリアビジョンの構想をさらに深めてまいりました。そのエリアビジョンを実現すべく富士見町内で空き家を探し求めてきましたが、ようやく１軒の空き家にたどり着き、まちづくりプロデューサーの熱い思いに共感いただいたオーナーさんのご厚意により、このたびお借りすることができました。

空き家という「資源」を得たことで、地域の居場所づくりを通じた徒歩圏域の充実、必要なまちの機能の整理、ヒトとモノの回遊性をつくるなど、まちづくりプロデューサーの構想を実現する段階に移行します。その手始めに、まちづくりプロデューサーのお２人を中心に、地域の方や社会福祉協議会，またOur Living Room Caféを主催する若い世代の視点も取り入れて、空き家活用のアイデア出しを行いました。

これらのアイデアをもとに、2022年度は空き家を活用した様々な実証実験に取り組んでまいります。富士見町チャレンジショップは、運営者の公募・審査を経て、６月オープン予定です。意欲あふれるみなさまのご参加をお待ちしております。（調布市都市整備部住宅課空き家施策担当）

富士見町チャレンジショップの舞台となる空き家の部屋で行われた、活用に関するアイデア出しミーティング。まちづくりプロデューサーを始め、地域の方や社会福祉協議会、共立女子大学の学生らが集まった。

調布市空き家エリアリノベーション事業 まちの「つながり」プロジェクトの最新情報は noteでチェック!

ウェブメディアのプラットフォームサイトnote内に、「調布市空き家エリアリノベーション事業」のページを立ち上げ、これまでの取り組みの紹介や講演会などのレポート、これから行われるイベントやワークショップなどの情報を掲載しています。まちの「つながり」プロジェクトは、市民のみなさんといっしょにつくっていくものです。noteで最新の情報をチェックし、ぜひご参加ください。

まちの「つながり」プロジェクトの最新情報はこちらからアクセス!!

https://note.com/chofu_areareno

編集後記

富士見町チャレンジショップとして活用される空き家には南向きの明るい庭があり、ショップとなる1階の2部屋からは直接、その庭に出ることもできます。家の前の道路の先は、住宅が建つ行き止まりで、車が走り抜けることもありません。開放感があって、幅広い年代の方が自由に立ち寄り、安心して時を過ごせる場所になるのだろうなと感じます。

この空き家活用は、ほかの地域でも真似ができるようなモデルになることを目標にしており、いわゆる「助成金」頼りの運営にしないことも目指しています。「民」の力で、自分たちが本当にほしい「パブリック」な空間をつくるチャレンジです。ご高齢の方は朝から立ち寄り、コーヒーが飲めるような場所がほしいのかもしれません。子育て世代はちょっとした育児の悩みを相談できる場所を求めているのかもしれませんし、子どもたちがほしいのは「ひみつ基地」でしょうか。いったいどんなアイデアが集まり、どんな場所ができていくのか、6月のオープンが今から楽しみです。（パカノラ編集処・小西）

TSUNAGARI Project

空き家の活用チャレンジへ！地域のつながりを生み、ずっと続けていけるみなさんとつくっていきます

空き家をどう使うか、いよいよスタートです

日本の社会で進む少子高齢化、人口減少という現実には、空き家の増加という課題がついてきます。

東京都のほぼ中央に位置し、交通の利便性も高く、にぎわいのある調布市でも空き家は徐々に増加しています。

そこで空き家を地域の「資源」と捉え、人と人との交流やつながり、新たな「価値」を生むような場所にするにはどうすればいいか、地域のみなさんと行政がいっしょに考えるプロジェクトを調布市が立ち上げました。2020年度から3か年で行う調布市空き家エリアリノベーション事業の「まちの『つながり』プロジェクト」です。

プロジェクトの舞台は富士見町。戸建て住宅が多く、地域内のつながりが強い一方、高齢化率が高く、商店が少ないことで「買い物難民」になる方もいる地域です。

20年度は調布市以外の場所での空き家活用事例を学ぼうと、各地の先進事例の実践者らを講師に招いた講演&トークセッションを行いました。

21年度はワークショップの開催を予定し、共立女子大学の学生たちが入念な準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2度ほどあった実施機会を断念することになりました。しかし前年度に引き続き、全国の先進事例について住民の目線に近い立場から語れる方を講師に、講演&トークセッションをオンライン配信で行いました。

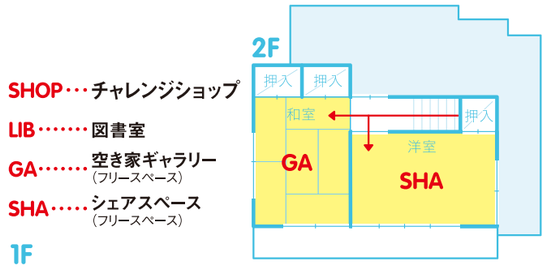
そして、いよいよ実際の空き家を使った活用チャレンジが始まります。

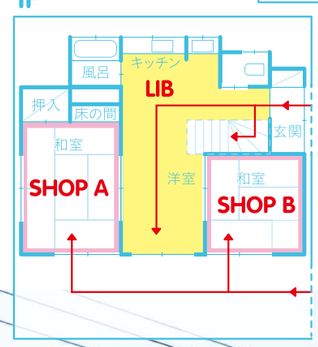
富士見町1丁目にある空き家を調布市が任命するまちづくりプロデューサーが期間限定で借り、その中の2部屋を「富士見町チャレンジショップ」として、公募から選定された方に運営していただきます。

またこの空き家では、調布市内の自宅リビングを開放し、誰でも利用できる無料カフェ「Our Living Room Cafe」を運営している熊谷大輔さんが同じコンセプトの図書室を開設するほか、調布市社会福祉協議会も活用に参画します。まちづくりプロデューサーである共立女子大学教授の髙橋大輔さん、建築家で「FUJIMI LOUNGE」を運営する菅原大輔さん、そのほか、地域の方々や専門家、行政もサポートに入ります。オープンは22年6月1日（予定）。ぜひお越しください！

富士見町チャレンジショップがオープンするのは富士見町1丁目の住宅街の中（★印）だ。

公募結果や場所などの詳細は調布市空き家エリアリノベーション事業のnoteページで随時アップしていきます。





空き家の平面図。1階の「SHOP A」「SHOP B」が富士見町チャレンジショップとなる。その間の洋室は「Our Living Room Cafe」の図書室となり、2階はイベントなども行えるギャラリーや、地域の方に活用していただけるフリースペースにする予定。

右／玄関から見た空き家。閑静な住宅街にある木造2階建てで、家の反対側も隣の道路と接続している。上／「SHOP A」として運営者を公募している1階の部屋。南側の庭に面して日当たりもいい。

空き家の新しい使い方、ここから生み出していきます！

富士見町チャレンジショップの舞台となる空き家の前で。この日集まっていたのは、公募で決まる運営者と一緒にこの場を活用したり、運営をサポートしていく市内の方々や、調布市社会福祉協議会スタッフ、共立女子大学学生、まちづくりプロデューサー、調布市の担当者ら。今後の運営などについて話し合った。